

会 議 記 録				
会 議 の 名 称		広報広聴会議		会議場所 第3委員会室 担当職員 阿久根由美子
日 時		平成26年10月14日(火曜日)		開 議 午前 9 時 30 分 閉 議 午前 9 時 55 分
出席委員		菱田 山本(広報部会長) 眞継(広聴部会長) 苗村 福井 中村 小島 中澤 堤		
事務局 出席者		山内次長、阿久根副課長、坂田主任		
傍聴	可	市民 名	報道関係者 名	議員 名()

会 議 の 概 要

9 : 3 0

〔菱田委員長開議〕

1 わがまちトークについて

〔眞継副委員長 説明〕

<福井委員>

実施目的を明確にしないといけない。事業目的があってキャッチコピーがある。目的を共通認識しておかなければならない。

<眞継副委員長>

市民との距離を縮めることが目的である。

<事務局>

開催のお知らせには、情報の届け方や意見聴取の方法について意見をもらいたいことを掲載する。

<福井委員>

身近な議会をコーディネートしたり、意見をもらうのが広報広聴会議の役割である。キャッチコピーでは広報広聴の言葉を使わないが、この場では事業の目的を共通認識しておく必要がある。身近な議会が今回の事業目的で、そのために意見を聞くものである。

<眞継副委員長>

私が言っていることは同じである。ほかの委員はどのように理解されているのか。

<山本副委員長>

広報広聴の意味での身近な議会と理解しているが、キャッチコピーを見た市民から地元の問題の意見が出ることも無きにしもあらずである。それも含めるのか。

<眞継副委員長>

地元の意見に寄り添うのが身近と言う意見もあるかと思うが、広報広聴活動が身近な議会となるためのアクションになっているのかについて意見を聞くのが中心である。地元の問題があったときに議会の聞く姿勢がどうか、どう思っているのか市民の本音を聞くものである。

<山本副委員長>

そのとおりだと思う。伝え方について意見を聞くことを目的にするのは賛成である。

<苗村委員>

このキャッチコピーではいろんな意見が出るように思う。議会として身近な議会となるよう広報広聴会議が開催することをまず伝えるべきだと思う。意見交換ではそのようにコーディネートしていかないといけないと思っている。

<中澤委員>

ねらいとやることに違いがあるように感じるので、全議員が対応する形をとるべき。

<福井委員>

部会において目的は明確だった。それを説明するべき。ここで共通認識しないといけない。

<事務局>

前回会議で、わがまちトークは広報広聴会議で広報広聴に関して行うことが決定した。それを踏まえて広聴部会でキャッチコピーを決められた。これから、開催のお知らせをしていく際には、広報広聴会議の委員が行うこと、議会情報を届ける方法や意見を聞く方法について意見がほしいことを明確に掲載することになる。以上を確認願えればと思う。

<菱田委員長>

事務局説明のとおりで進める。 了

2 その他

<菱田委員長>

本日、全員協議会のあと、全議員にわがまちトークの報告とフェイスブックの画面視聴を行う。

次回会議は11月6日に役割分担等事務の打ち合わせを行う。

〔菱田委員長 閉議〕

9 : 5 5